

令和元年度 目標及び報告

同 朋 学 園

法人の 基本方針	項目	目標 (P)	実践 (D)	気付き・反省・満足度(C)	次への期待 (A)
地域との共生	社会貢献	・地域清掃の実践 ・地域活動への参加 ・地域支援	≪地域清掃≫ ・月1回、児童と職員での地域清掃 ・年11回、職員のみでの地域清掃 ・年1回、全教一斉ひのきしん ・年2回、地域自治会による清掃活動への参加 ≪地域活動≫ ・五毛天神子ども神輿小学生参加 ・みのおかまつり手伝い ・児童館夏祭り手伝い	・見てくれている人は見ているのでこれからも小さなことの積み重ねを忘れず、コツコツと実践していき、地域に根差したい。	・人のお役に立つことの嬉しい人となること。 ・社会の一員であることの意識付け。
人権の尊重	子ども支援	・グループホームでの生活で家庭体験を増やす ・子どもが主体的に運営する行事（運動会など） ・子ども対象の研修会（サイバー講習）	・各ホームにおいて食事を準備する時に子どものお手伝いが増えた。 ・各行事における子ども担当の実施。（1/13、運動会） ・子ども対象の研修会（サイバー講習：4月4日）の実施。	・運動会では楽しい行事をみんなで盛り立てたり、小さい子らへの配慮なども含め、リーダーとメンバーの役割もこなせるようになってきた。 ・児童対象の研修を今後も取り入れていくことで共通理解を深めることに通じる。	・子ども主体の行事はそれぞれの自信や協力しあう楽しさにもつながり、それが今後の人生に影響することを知る。
人材育成	職員の資質向上を目指す 社会的、家庭的養護の推進に向けて	・子どもの権利擁護チェックリスト(全養協)による自己点検 ・ケースカンファレンス(年11回) ・第三者評価受審	・子どもの権利擁護チェックリストによる自己点検(12月) ・園内研修(4/23、6/18、9/18、12/4 講師：渡辺和美氏)(4/4、講師：本田英理氏) ・ケースカンファレンス(8月以外、毎月1回) ・第三者評価受審	・ケースカンファレンスとは別に心理担当の提案で児童の処遇について渡辺和美先生からもっと話を聞きたいということで有志参加の研修を行うようになったことは職員の子どもの理解したいという思いの表れであると思うので続行していきたい。 ・第三者評価を受けることは自分たちの振り返りができ、子ども支援への向上につながった。	・子ども理解は大人理解にも通じる。 ・職員の相互理解。
	「ようこそ」「ありがとう」「さきに」の実践	・「ようこそ」→学園に來られた方すべてに“ようこそ”の思いを持って接する ・「さきに」→日常のあいさつは自分から“さきに”行う ・「ありがとう」→どんなことから学びがあることを知り、“ありがとう”の思いを持つ	・受け入れる心の実践。 ・先に挨拶することの実践。 ・物事の見方を変えてみることの意識付け。 ・小さなことでも感謝の思いを持つことの意識付け。	・小さい子どもへの理解はつきやすいがどうしても年相応の見方をする事が多く、自分の価値観で物事を見てしまうと「育ちなおし」「育てなおし」につながりにくいようであるので、一歩引いて視野を広げて物事を見るゆとりを持つように心掛けたい。	・相手とのチャンネル合わせが出来て、認め合える雰囲気づくり。

サ ー ビ ス の 質 の 向 上	建 替 え 事 業 計 画	・初代、二代の意思を引き継ぎ、現代社会におけるニーズの把握と社会貢献を見据えての事業展開ができる施設の建設	・全児童がグループホームでの生活となる ・食堂、事務所は同朋保育園東園舎を借り受け ・学園建設着工（4月1日～平成32年3月末完成予定）	・工事については大きな事故、遅れなどなく順調に進み、期日通りに完成したが、新型コロナウイルス感染拡大のため、内覧会を実施することができなかったが、地域の方へは3月31日に湊建設の酒井現場監督さんと梅木が150軒にご挨拶文と粗品を持って挨拶に行った結果、一部の方よりお礼を言っていた。	・各ホームとの協力体制強化を図り、次年度の体制を整えていく。
---	---------------------------------	---	--	---	--

令和元年度 実践報告

同 朋 学 園

	目標（P）	実践（D）	子どもの声	気付き・反省・満足度・次への期待（C/A）
北町ホーム	- ホームでのルールを守る - 子どもとの関係性を築く - 自分の行動、言葉に責任を持つ - 自分で出来ることは自分でする	- ルールの周知、状況に応じたルールの変更および説明 - 子どもの生活に関わる部分のルールに関しては、徹底して周知し、守るよう指導した。 - 基本的な生活ルールを守りながらも、子どもの意見は積極的に受け止め、柔軟に対応するようにした。 - 北町会議の実施 - Wi-Fi使用時間の変更 - 子どもの話を聞くこと、話すこと - 個々の子どもの課題を明確にし、適切な指導、助言が出来るよう努めた。 「時間を守る」、「挨拶をする」などの大切さを北町ホームでの生活を通して子どもに伝え、社会性を身に着けることが出来るようにした。	- 進学に関すること - ルールに関すること - もっとゲームで遊びたい - 欲しい物がある(玩具やスマートフォンなど) - 勉強がめんどくさい - どこか遠くへ遊びに行きたい	- 子ども自身が目標を持ち、自分の目標や課題に対し、しっかりと向き合っていけるようにサポートしたい。 - 子ども達の生活状況に応じて、ルールを周知し直したり、変更したりすることで、落ち着いた生活を守ることができていると感じる。 - 子どもの言い分に耳を傾けること、そのうえで、こちらの考えを伝えることが大切である。子どもが自分で気づけるような関わり方をしたい。 - 落ち着いて生活できているように見えても、自身でも気づかないうちに悩みや不満、不安などのストレスを過度にかかえてしまっていることがあるように思う。日々の子どもの関わりの中で、子どもが発している見えないサインにも心配りをしていきたい。
中町ホーム	- 話しやすい関係性を築き、自己選択できるよう導く - 子ども同士が互いに尊重しあい、共にわかりあえるよう意見を出し合う	自分の気持ちを素直に言葉で伝えられるよう職員は対話の中でその児童が理解しやすい声掛けを心掛け、自己選択を促した。	- 話をしっかりと聞いてくれるので決めつけされず自分の問題を解決できた。 - 携帯電話を持ちたいのでアルバイトをしたい。 - 問題行動がない生活をしたい。	- 子ども達が出来ることを少しでも増やし、自信に繋げていくよう職員が援助していきたい。 - 大学生、高校生、中学生と進学した児童が増えるため、これまでの生活の流れを見直し、自立に向けた援助をしていきたい。
みつばホーム	- 子どもも大人も挨拶をしてコミュニケーション力を高める - 自分の気持ちを言葉で表現する - 人の話をきちんと聞く	- 職員が積極的に挨拶をし、良い挨拶が出来ている時に褒めた。 - 素直に言えない子どもに対しては職員が代弁することで考えを整理できるようにした。 - 職員と個別に話す機会を設け、自分と向き合い、課題や将来について話すことが出来るような環境づくりを行った。 - 話をきちんと聞いた時に褒め、子どもから意見があった際は否定せず、聞くようにした。	- 話すのは面倒だけど大切と感じる。 - 職員と個別に関わる機会が欲しい。 - 相手が話を聞いてくれない時がある。	- 子どもから関わりを求めてきたときは子どもが納得いくまで対応したり、時間を設けて気持ちを受け止めるよう心掛けたことで子どもたちも少し落ち着いてきたように思う。 - 外出時や食事など挨拶や必要な伝達をしっかりと行えるようになってきた。
さくらホーム	- 生活のリズムを整える - あいさつをお互いにできるようにする - 感謝を言葉にする - 気持ちを言葉で表現し、そして人の話を聞く	- 起床や食事マナー等、基本的な生活習慣が身につくよう声掛けをした。 - 職員が率先して挨拶をしたり、感謝の気持ちを伝えたりした。	- 食事の用意を手伝ってくれた。 - 年下他児の面倒を見てくれた。 「職員や他児とお出かけた。」	- 一人ひとりの話をしっかりと聞き、個々の関わりを大切にしたい。 - 社会に出ていくためのお金の使い方、挨拶や言葉遣いなども伝えていきたい。 - 生活習慣がしっかりとつき、毎日全員が時間内に起床し、揃ってご飯を食べることができた。

食 堂	・子どもが「食」に関心を持てるような情報を伝える ・自立後の食生活に役立つ情報を伝える ・ホームでの調理時の衛生指導を徹底する	・積極的に手作りを増やした。 ・ホームでの最終調理を行なうことで子どもたちが料理に関心を持つようになった。 ・季節ごとに行事食を提供することができた。 ・積極的に職員が子どもに献立の説明をした。	・子どもたちから「嫌いなものが食べられた」との声が増えた。 ・行事食を楽しみに寄ってきてくれる子どもが増えた。	・食事の準備も子どもたちを交えて行なうようにすることで、子どもたちは食に関心を持ち、社会に出た時に役立つことを職員に伝える。 ・子どものリクエストを献立に入れていきたい。 ・自立のための調理指導を個別に対応していけるよう計画していくことが必要。
事 務 所	・明るい挨拶と笑顔 ・TP0をわきまえる ・役割分担と情報の共有化	・出勤時には大きな声で挨拶をした。 ・常に情報の共有を図った。 ・入りやすい雰囲気の事務所に心掛けた。	・「いつもわたしに笑顔やしゃべりかけてくれてありがとう。また、たのみがあったらゆってね」 ・「何かお手伝いすることはないですか？」	